

今夏の需給実績について

1 気象の特徴

今夏は、太平洋高気圧の張り出しが早くから強まった影響で、梅雨明けそのものは早かったものの、その後台風の接近ならびに前線や湿った気流の流れ込みなどの影響で、曇天・雨天の日が多くなりました。

その結果、高気温が一定期間継続せず、7月下旬から9月上旬にかけて、九州全域で最高気温が前年を大きく下回りました。

最高気温実績 [九州7県平均]

	7月				8月				9月	
	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬	下旬	月間	上旬	中旬
最高気温()	30.2	31.8	31.5	31.2	32.7	31.8	31.6	32.0	30.4	30.2
平年差	+1.2	+1.2	0.1	+0.8	+0.7	+0.1	+0.6	+0.5	+0.5	+1.8
前年差	+1.1	+1.2	1.2	+0.3	1.1	1.5	2.5	1.7	2.0	0.6

2 需給実績

今夏の電力需要実績は、最大3日平均電力(日々の最大電力のうち、夏季の上位3日の平均値)が1,537万kW、日電力量(1日の発受電電力量)が3億5百万kWhと、前年を大きく下回りました。

この要因は、期間中安定した天候が継続しなかったことに加え、一般から大口に至るすべてのお客さまが「省電」に取り組んでいただいた効果と考えております。

また、供給面では、原子力発電所の停止への対応として、代替となる火力発電所の燃料の追加調達や、他社からの受電の増加、電力供給設備の事故防止・維持管理の徹底などの取組みを行ったことにより、電力供給に大きな支障は生じませんでした。

最大電力、日電力量(発電端)

	最大3日平均電力 (万kW)	日電力量 (百万kWh)
H23年度実績	(8月9日,8月30日,9月1日) 1,537	(8月9日) 305
前年差(比)	193(11.1%)	33(9.8%)

前年記録 (H22年度)	1,730	338
-----------------	-------	-----

最大電力バランス(発電端)

	最大3日平均
電力需要(万kW)	1,537
供給力(万kW)	1,732
供給予備力(万kW)	195
供給予備率(%)	12.7

最高気温()	32.9
---------	------

最高気温は九州7県の平均を示す

時間最大電力 (万kW)
(9月1日15時) 1,544
206(11.8%)

1,750

3 今夏の省電効果について

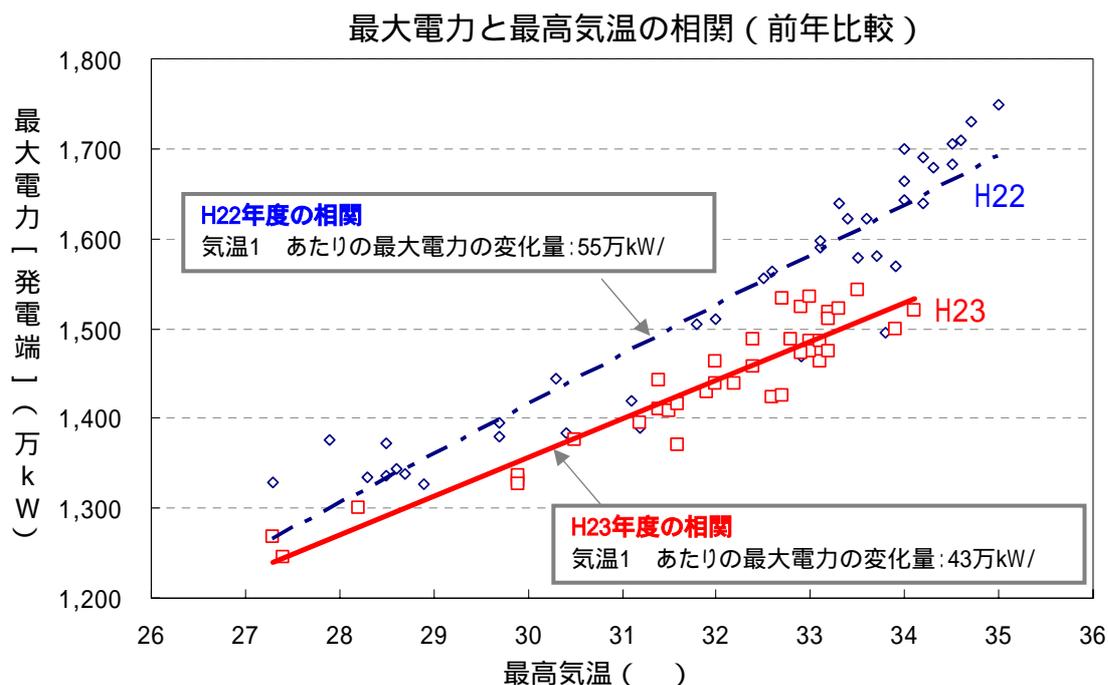
今夏の最大電力は、気温の影響を除くと、昨年に比べて110万kW程度低くなっており、その大半がお客様にご協力いただきました「省電」の効果であったと考えております。

これにより、今夏の電力供給につきましては、需給ひっ迫のご心配をお掛けしてはりましたが、皆さまの「省電」へのご協力などにより、乗り切ることができました。

お客様にご不便をおかけしましたこととお詫び申し上げますとともに、「省電」へのご協力に対し、厚くお礼申し上げます。

今後も原子力発電所の運転停止が継続した場合、今冬は厳しい需給状況となることが予想されます。当社は、今後も電力の安定供給に向けて、最大限の努力を行ってまいります。お客様におかれましては、電気の効率的なご使用による「省電」に引き続きご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

最大3日平均電力の前年差について



	H23年度 (A)	H22年度 (B)	前年差 (A - B)
最大3日 平均電力 (万kW)	1,537	1,730	193
最高気温 (°C)	32.9	34.6	1.7

気温の影響： 80万kW程度

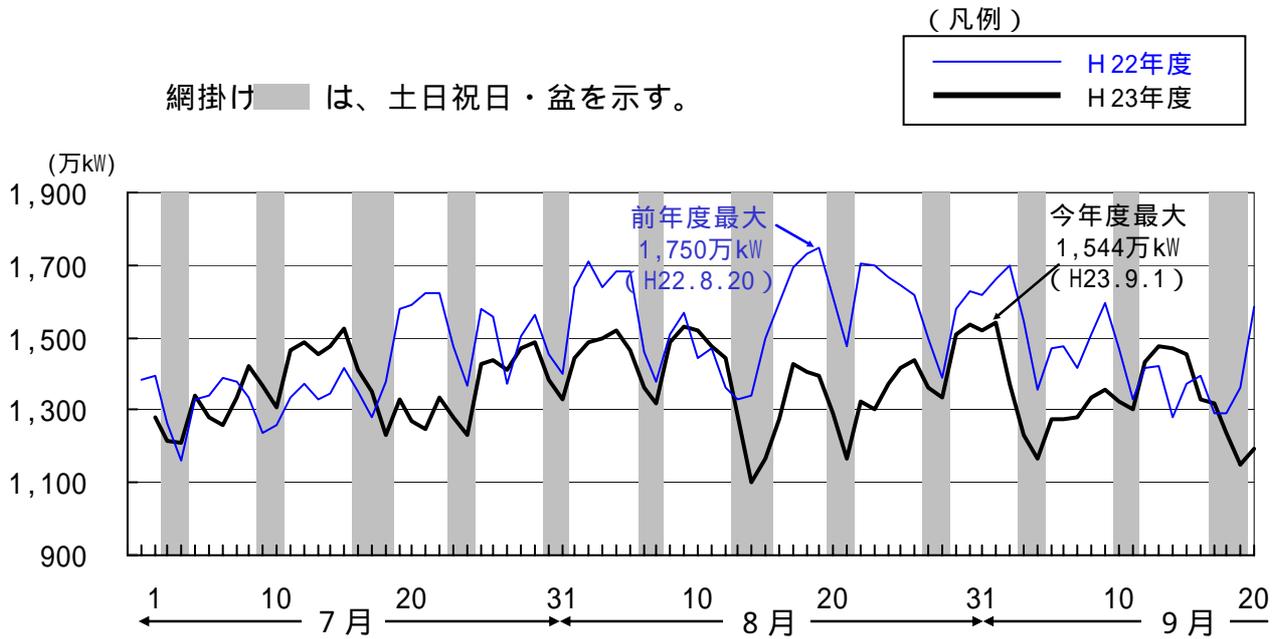
今夏は前年に比べ、最大3日平均電力発生日の最高気温が1.7低いことから、今夏の気温1あたりの最大電力の変化量によれば、気温による影響は80万kW程度となる。

省電等の影響： 110万kW程度

上記以外の要因であり、省電等の影響と考えられる。

時間最大電力と最高気温の推移

[時間最大電力（発電端）]



[最高気温（九州7県平均）]

